

青年部活動に参加して『かけがえのない地域の為に』

蓮田市商工会青年部 田部井穂人

蓮田市本町3-8

日信土地株式会社 048-768-2550

『ゴルフがお好きでしたら是非！当銀行主催のゴルフコンペに来てください！！』

銀行の担当者より誘われたゴルフコンペが、青年部入部のきっかけとなりました。

皆様、こんにちは！蓮田市商工会青年部、田部井穂人と申します。

蓮田駅西口から徒歩2分の場所に店を構える、「日に日に信用」が合言葉の地域密着型不動産屋です。

きっかけとなったゴルフコンペは、今から約10年前までさかのぼります。

そこで出会った、当時の青年部部長より

『蓮田市商工会に青年部があるから、まだ入ってないなら入ってよー』

と、軽く言われた私は心の中で（面倒くさそうだし嫌だなー）などと思いながら断る口実をさがしていましたが、『大丈夫、大丈夫』の言葉に背中を押され入部を約束したのでした。

そうです、当時の私は「仕事でもないことで時間を取られるなんて無駄だ！」と考えてる人間だったのです。現にその後二年間はほぼ幽霊部員として、過ごすこととなります。

そんな中、我が家の近くで開催された『うたやの森フェスティバル』に、子どもと参加しました。

うたやの森フェスティバルは縄文時代に豊作を願い、飲めや歌えやと宴を開いたのをヒントに音の村・食の村・学びの村、3つの村から構成され、1日来場者10,000人以上が集まるとも大きなイベントです。

地域の人たちが楽しそうに踊ったり、歌ったり、遊んだりしている姿がありました。そして、このお祭りを青年部が一生懸命企画していることを知った私は

「自分も企画する側になりたい！」

そう、私の**気持ち**が変わった瞬間でした。

その後、久しぶりの青年部活動に緊張しながら行った私に声を掛けてきてくれたのは、中学の同級生、ずっと来ていなかった私は、

「幽霊部員で来てなかったんで肩身が狭い」と言う

『そんなことないよ！来れない時もあるし少しでも協力してくればありがたい。と、みんな思っているよ。俺だって来れない時もあったし気にすることはないよ！』

このように、温かい言葉を掛けられた私はそれ以来、時間があれば青年部に顔を出し。

頼まれれば断らずどんどん青年部活動に力を入れていきました。

ある日、北地区交流会という地域の青年部が集まる場所で。

『なんで今まで来なかったんだ。もっと積極的に参加してよー！』

『様々な地域と職種が交流することでもっと仕事にも繋げたいし、仲間を増やしたいんだよねー！』と、たまたま隣だった方が熱く語っている姿に共感しました。

それがきっかけで、地区やブロックの事業にも積極的に参加する様になります。

主張大会や北地区正副部長会議、県の理事会などに携わるようになりました。
そして、様々な考え方を聞く機会が増えました。
考えの違いから時には意見がぶつかることもありましたが、それは『より良くする為にはどうすればいいのか』との気持ちからでした。
いろいろ地域の、事業に取り組む姿勢から熱意を感じ、私も共鳴し、高揚しました。

そんな中、2020年3月 現在も収束が見えない新型コロナのニュースが飛び込んできました。

軒並み中止になるイベント、青年部で同じ仲間として過ごしていた事業所の休業。
その影響は想像を絶するものでした。
私が青年部に来るきっかけになった、うたやの森フェスティバルも10年以上続いていましたがその年はじめて中止となりました。
当時の実行委員長が涙ながらに、中止の判断をしました。それは苦渋の決断でした。
年が明けてワクチン供給も進む中、今年こそうたやの森が開催出来ると考えていました。
しかし、デルタ株が猛威を振るいまた感染が広がりました。
『また中止でいいのか!』『何か違う形でやれないか』と連日会議を行いました。
人数制限した中、入場ゲートで体温計や消毒などを行えば出来るのか、食事の提供はどうするのかなど議論を重ねました。

『商工会主催でイベントを開催するリスクを考えると難しいのではないのか・・・』
そんな諦めの空気が青年部の中に出始めた時、若手の青年部員より一言
『オンラインならできるじゃん!!』
うたやの森をここでなくしてはいけない。一気に青年部員の熱が上がり、今出来る最大限の形で!と言うことでオンラインの開催となりました。
大きなイベントである「うたやの森フェスティバル」も長年行ってきた諸先輩方のノウハウがあります。しかし、オンライン開催は初めての試み。言わばゼロから作る様な物です。
私が担当した食の村は、普段テントでブースを作り参加した飲食店に出店してもらいますが今回はオンラインです。

食の村なのにオンライン? どうすればいいか悩む私に、部員から
『ハッシュタグキャンペーンなんて面白いんじゃない』
『動画で紹介とかもいいね』
『うたやメニューを作ってテイクアウト出来れば緊急事態宣言下でも出来るのでは』
様々なアイデアが寄せられて希望が見えてきました。

取り組みをまとめて、今度は飲食店にオンライン開催の説明と参加のお願いを行いました。
今までとは勝手の違う、オンラインでの開催に最初は困惑されました。
中でも多かった意見は『動画なんか撮影出来ないよー』って声でした。
各店舗さんの意見を参考に、動画の撮影は希望者には部員が行いことで調整し、根気強くうたやの森フェスティバル開催したい、そんな想いを伝えて納得して参加して頂けました。また、新たな取り組みが共感を生み、これまで参加していなかった店舗の協力を得ることもできました!

ハッシュタグキャンペーンの概要を考え、飲食店の PR 動画撮影やキャンペーンの告知、Instagram の投稿などその活動は多忙を極めました。

しかし期日の迫る中、集まらない動画！！参加してくれた方が自ら動画撮影と申し込まれてましたが参加者にとっても初めての試み、やっぱり撮影して欲しいと追加のお願い。忙しい中で再度調整して連日動画の撮影となりました。コロナの流行がなければ、きっと開催しなかったであろうオンライン開催方式。思考錯誤の毎日ではありましたが、中止としてではなく何か残る形を作りたいと言う熱い気持ちがあったからこそ最後まで出来たと思います。

後日参加の飲食店から『新規のお客さんが来てくれたただけど店の雰囲気が、うたやの PR 動画を通して解ったから、入ってくれたみたい』

と言われ、地域の応援にも繋がったと実感し、とても嬉しかったです。

今年も、うたやの森フェスティバルに向けた会議が始まりました。日々変わる状況ですが、地域の為になにか少しでも 希望となるような形での開催を目指しています

私は不動産業界に入ってからずっとお客様の為と思うことはあっても地域の為にと思って仕事をしたことは正直ありませんでした。

しかし、青年部を続ける中で気持ちが変わっていきました。

それは今まで出会った人達の思いをすることで変わったのだと確信しています。

仕事として地域の為に何か出来ることはないか考え、「蓮田市空き家バンク媒介」の取り組みを始めました。

蓮田市と協定書を締結した宅建協会に登録し、空き家対策として売買や賃貸などの運用を提案しております。

また今後やっていきたい取り組みとして農地があります。私自信も農地の持つ親がおります。そして売るに売れない農地の相談をされることが増えてきました。令和 6 年より所有者不明の農地も相続人が登記する必要性が生まれます。突如として知らなかった農地が自分のものと言われ木の撤去を請求される恐ろしさ、わかりますか。正直難しいですし、自分の力だけではまだ解決の見えない問題ですが出来る限り取り組んでいます。

私が青年部に入ったきっかけは決して人に自慢できるようなものでもありませんでした。

しかし気持ちが変わり、行動が変わることで少しではありますが、自分に自信が持てるようになりました。

私たちがこの町で仕事をしていくのであれば、地域の発展は欠かすことのできません。

会社の目標として売り上げを上げることはもちろん大切です。

しかし信頼され生涯お付き合いの出来る企業として地域に貢献する。そうすることで仕事にもつながり会社の発展にも繋がるのではないのでしょうか。

コロナや人口減少など、どうしようもない環境の変化は絶えずあると思います。

しかし、かけがえのない地域の為に今私が出来ることは何なのか商工会青年部で出会った仲間と共にこれからも考えていきたいと思っています。

そしてその想いを次の世代に引き継ぐことが出来れば幸いです。

ご清聴ありがとうございました。